



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月10日

上場取引所 東

上場会社名 日清食品ホールディングス株式会社

コード番号 2897 URL <http://nissin.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長・CEO

(氏名) 安藤 宏基

問合せ先責任者 (役職名) 取締役・CFO 兼 常務執行役員

(氏名) 横山 之雄

四半期報告書提出予定日 平成28年11月10日

配当支払開始予定日

TEL 03-3205-5111

平成28年11月29日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	235,844	8.2	11,735	△5.3	13,768	△14.4	12,215	12.9
28年3月期第2四半期	217,942	7.9	12,398	31.8	16,088	21.6	10,817	33.2

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 △17,845百万円 (—%) 28年3月期第2四半期 6,629百万円 (△24.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	112.99	112.42
28年3月期第2四半期	98.13	97.63

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	507,847	351,524	66.9
28年3月期	553,068	371,688	65.1

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 339,512百万円 28年3月期 360,042百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
29年3月期	—	40.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	500,000	6.8	27,800	5.3	31,500	2.5	22,500	△16.3	207.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)：無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有
(注)詳細は、【添付資料】P. 4(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：有
 - ③ 会計上の見積りの変更：有
 - ④ 修正再表示：無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、【添付資料】P. 4(会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示)をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期2Q	117,463,685 株	28年3月期	117,463,685 株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	9,286,119 株	28年3月期	9,438,151 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期2Q	108,106,536 株	28年3月期2Q	110,236,485 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は完了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 3(連結業績予想などの将来予測情報に関する説明)をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の我が国経済は、雇用・所得環境の改善が続き、景気は緩やかな回復基調となりました。政府の経済対策効果への期待感が下支えとなる一方、円高や新興国等の景気減速など、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは平成29年3月期からの5ヵ年を対象とする「中期経営計画2020」に基づき、「本業で稼ぐ力」と「資本市場での価値」の向上を実現すべく、戦略テーマである①グローバルブランディングの促進、②海外重点地域への集中、③国内収益基盤の盤石化、④第2の収益の柱の構築、⑤グローバル経営人材の育成・強化に取り組んでおります。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高では前年同期比8.2%増の2,358億44百万円となりました。利益面では、営業利益は前年同期比5.3%減の117億35百万円、経常利益は前年同期比14.4%減の137億68百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比12.9%増の122億15百万円となりました。

<連結業績>

(単位：百万円)

区分	平成28年3月期	平成29年3月期	対前年同期比	
	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	金額	%
売上高	217,942	235,844	+17,901	+ 8.2
営業利益	12,398	11,735	△ 662	△ 5.3
経常利益	16,088	13,768	△ 2,320	△14.4
親会社株主に帰属 する四半期純利益	10,817	12,215	+ 1,397	+12.9

報告セグメント別の業績の状況は、次のとおりであります。

① 日清食品

日清食品㈱の販売状況は、カップめん類が売上を伸ばし前年同期比で増収となりました。

発売45周年を迎えた「カップヌードル」群の売上が引き続き好調であったことに加え、初のプレミアムタイプで、これまでにない贅沢なスープが特徴の「カップヌードルリッチ」や、「謎肉」と呼ばれる味付豚ミンチが通常の10倍入った「カップヌードルビッグ“謎肉祭”肉盛りペッパーしょうゆ」が売上増に貢献しました。また、発売40周年を迎えたロングセラー商品の「日清のどん兵衛」群は、特に主力の「日清のどん兵衛きつねうどん」が好調で、売上が大幅増となりました。同じく今年発売40周年を迎えた「日清焼そばU.F.O.」群も40周年記念プレゼントキャンペーンや「U.F.O. 仮面ヤキソバン」を復活させたWEBプロモーションが話題となり売上が好調に推移しました。

この結果、報告セグメントにおける日清食品の売上高は、前年同期比3.5%増の1,052億15百万円となり、セグメント利益は、前年同期比4.3%増の107億52百万円となりました。

② 明星食品

明星食品㈱の販売状況は、カップめん類、袋めん類とも「明星 チャルメラ」シリーズが引き続き売上を伸ばしました。利益につきましては、ブランド強化を目的とした払販費・広告宣伝費等の販売費の増加による影響で前年同期を下回りました。

この結果、報告セグメントにおける明星食品の売上高は、前年同期比0.4%増の200億80百万円となり、セグメント利益は、前年同期比37.1%減の7億28百万円となりました。

③ 低温事業

日清食品チルド㈱の販売状況は、夏の定番商品である冷し中華類が堅調に推移しました。また、主力ブランド「行列のできる店のラーメン」、「日清の太麺焼そば」及び新製品「まぜ麺」の売上が引き続き好調で、前年同期比で増収となりました。

日清食品冷凍㈱の販売状況は、パスタ類、ラーメン類を中心に売上が伸長しました。パスタ類では、「牛挽肉とまいたけのクリーミーボロネーゼ」をはじめとする、もちっとした食感が特長の「日清もちっと生パスタ」シリーズが引き続き好調でした。ラーメン類では、「辣椒担々麺」をはじめとする「冷凍 日清具多」シリーズや「冷凍 日清中華汁なし担々麺大盛り」等汁なし麺が売上を伸ばしました。更に、冷凍具付きうどん類やお好み焼も好調に推移し売上増に貢献しました。

この結果、報告セグメントにおける低温事業の売上高は、前年同期比1.8%増の305億60百万円となり、セグメント利益は、前年同期比167.4%増の10億78百万円となりました。

④ 米州地域

米州地域においては、価格競争の影響を受けにくい企業体質への改善を目指しております。平成28年9月に米国及びブラジルで「CUP NOODLES」のリニューアルを実施する等、市場のニーズに合った高付加価値商品の投入と、既存ブランドの売上と利益の確保に取り組んでおります。また、ブラジルにおいて前第3四半期連結会計期間より連結子会社化したニッシンフーズブラジルLtda.（旧社名 ニッシン・アジノモト アリメントスLtda.）の寄与もあり、セグメント全体では増収増益となりました。

この結果、報告セグメントにおける米州地域の売上高は、前年同期比52.5%増の275億60百万円、セグメント利益は前年同期比241.2%増の7億45百万円となりました。

⑤ 中国地域

中国地域は、中国大陸市場での販売エリア拡大（華北・東北・西南地区）と中国版カップヌードル「合味道」のブランド強化に取り組んでおります。また、平成27年9月末から華南地区を中心に価格改定を実施し、その浸透に努めております。売上については、「合味道BIG」および「香港製造出前一丁」が引き続き順調に推移しておりますが、為替の影響もあったことから前年同期を下回りました。利益についても、為替の影響があったことから前年同期比で減益となりました。

この結果、報告セグメントにおける中国地域の売上高は、前年同期比14.9%減の174億58百万円となり、セグメント利益は、前年同期比2.1%減の18億17百万円となりました。

また、報告セグメントに含まれない事業セグメントである国内の菓子事業、飲料事業等及び欧州地域、アジア地域を含んだ「その他」の売上高は前年同期比26.3%増の349億69百万円となり、セグメント利益は、前年同期比25億34百万円増加の22億78百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の当社グループの総資産は、前連結会計年度末に比べ452億21百万円減少し、5,078億47百万円となりました。当第2四半期連結会計期間末の資産、負債及び純資産の状況は次のとおりであります。

資産の減少につきましては、主に現金及び預金が285億26百万円減少したこと及び投資有価証券が234億66百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ250億56百万円減少し、1,563億23百万円となりました。これは主に短期借入金で154億1百万円減少したこと及び支払手形及び買掛金が29億34百万円減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ201億64百万円減少し、3,515億24百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金が205億26百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の65.1%から66.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、平成28年5月12日に発表いたしました通期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）の連結業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日（平成28年11月10日）に発表いたしました「平成29年3月期第2四半期連結累計期間業績予想値と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、第1四半期連結会計期間より、PT. NISSIN FOODS INDONESIAは重要性が増したため連結の範囲に含めております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

（有形固定資産の減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社の有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法につきましては、従来、主として定率法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より、定額法に変更しております。

当社は、中期経営計画の策定を契機に、また、その戦略テーマの「工場高度化投資」の実行にあたり、当社及び国内連結子会社の有形固定資産の稼働状況を検討したところ、設備は安定的に稼働しており、技術的に陳腐化のリスクも少ないため、今後は減価償却費を耐用年数期間にわたり均等に費用配分することがより適切であると判断し、定額法に変更したものであります。

この結果、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の減価償却費が1,650百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1,437百万円増加しております。

（4）追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	87,110	58,583
受取手形及び売掛金	61,391	60,402
有価証券	3,804	4,306
商品及び製品	12,444	13,833
原材料及び貯蔵品	14,724	15,001
その他	11,796	13,635
貸倒引当金	△347	△322
流動資産合計	190,923	165,440
固定資産		
有形固定資産		
土地	52,694	52,565
その他(純額)	116,191	121,725
有形固定資産合計	168,886	174,290
無形固定資産		
のれん	28,549	27,485
その他	13,740	13,291
無形固定資産合計	42,290	40,776
投資その他の資産		
投資有価証券	145,246	121,779
退職給付に係る資産	202	285
その他	5,894	5,424
貸倒引当金	△374	△149
投資その他の資産合計	150,968	127,339
固定資産合計	362,145	342,407
資産合計	553,068	507,847

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	51,324	48,389
短期借入金	18,457	3,056
未払金	31,301	29,768
未払法人税等	7,262	6,860
その他	22,539	22,726
流動負債合計	130,885	110,800
固定負債		
長期借入金	13,041	15,200
退職給付に係る負債	7,987	7,707
その他	29,465	22,614
固定負債合計	50,494	45,522
負債合計	181,380	156,323
純資産の部		
株主資本		
資本金	25,122	25,122
資本剰余金	48,177	49,615
利益剰余金	293,803	301,161
自己株式	△35,836	△35,259
株主資本合計	331,267	340,639
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	43,172	22,645
繰延ヘッジ損益	△261	△282
土地再評価差額金	△6,379	△6,405
為替換算調整勘定	△4,576	△15,429
退職給付に係る調整累計額	△3,178	△1,655
その他の包括利益累計額合計	28,774	△1,127
新株予約権	1,859	1,628
非支配株主持分	9,786	10,383
純資産合計	371,688	351,524
負債純資産合計	553,068	507,847

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	217,942	235,844
売上原価	121,625	129,581
売上総利益	96,317	106,262
販売費及び一般管理費	83,919	94,526
営業利益	12,398	11,735
営業外収益		
受取利息	391	417
受取配当金	799	907
有価証券売却益	802	1,024
持分法による投資利益	1,502	647
その他	585	396
営業外収益合計	4,080	3,392
営業外費用		
支払利息	141	193
為替差損	133	951
その他	115	214
営業外費用合計	390	1,360
経常利益	16,088	13,768
特別利益		
固定資産売却益	33	22
投資有価証券売却益	912	6,828
その他	—	35
特別利益合計	946	6,887
特別損失		
固定資産廃棄損	155	103
減損損失	—	546
貸倒損失	508	—
火災による損失	—	480
関係会社株式評価損	—	408
契約変更による精算金	—	536
その他	15	28
特別損失合計	679	2,102
税金等調整前四半期純利益	16,354	18,552
法人税等	5,488	6,185
四半期純利益	10,866	12,367
非支配株主に帰属する四半期純利益	48	151
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,817	12,215

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	10,866	12,367
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,786	△20,790
繰延ヘッジ損益	△55	△21
土地再評価差額金	-	△25
為替換算調整勘定	△1,659	△9,033
退職給付に係る調整額	△590	1,580
持分法適用会社に対する持分相当額	△146	△1,922
その他の包括利益合計	△4,237	△30,212
四半期包括利益	6,629	△17,845
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,726	△17,686
非支配株主に係る四半期包括利益	△97	△158

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日清食品	明星食品	低温事業	米州地域	中国地域	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	101,643	20,010	30,030	18,075	20,504	190,264	27,678	217,942	—	217,942
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1,505	2,802	655	0	54	5,018	12,595	17,614	△17,614	—
計	103,149	22,812	30,686	18,076	20,558	195,282	40,273	235,556	△17,614	217,942
セグメント利益 又は損失 (△)	10,312	1,158	403	218	1,856	13,949	△255	13,694	△1,295	12,398

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内の菓子事業、飲料事業等並びに欧州地域、アジア地域を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,295百万円には、退職給付関係費用934百万円、のれんの償却額△221百万円、セグメント間取引消去等43百万円、グループ関連費用△2,051百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日清食品	明星食品	低温事業	米州地域	中国地域	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	105,215	20,080	30,560	27,560	17,458	200,874	34,969	235,844	—	235,844
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	473	2,919	756	1	161	4,314	14,013	18,327	△18,327	—
計	105,689	23,000	31,317	27,561	17,620	205,188	48,983	254,172	△18,327	235,844
セグメント利益 又は損失(△)	10,752	728	1,078	745	1,817	15,122	2,278	17,401	△5,665	11,735

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内の菓子事業、飲料事業等並びに欧州地域、アジア地域を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△5,665百万円には、退職給付関係費用△2,187百万円、のれんの償却額△985百万円、セグメント間取引消去等△161百万円、グループ関連費用△2,330百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

「会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更」に記載のとおり、当社及び国内連結子会社の有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法につきましては、従来、主として定率法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より、定額法に変更しております。

この結果、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間のセグメント利益が、「日清食品」セグメントで714百万円、「明星食品」セグメントで293百万円、「低温事業」セグメントで98百万円、「その他」で330百万円増加しております。